

## 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

確かな学力と意欲・志、さらには、高いコミュニケーション能力に裏打ちされた豊かな「人間力」を持ち、社会に貢献できる生徒を育成する学校。地域に根付いた地域に愛される学校をめざす。

1. それぞれの学力向上（「わかる、楽しい、規律ある授業」の展開、基礎的・基本的学力の定着、進学に向けた学力の向上）
2. コミュニケーション能力の向上（ピア・メンターシップの取組など）
3. 地域連携の推進

## 2 中期的目標

## 1 学力の向上（学ぼうとする力の育成）

- (1) 本校生徒にとって『授業のエンパワーサイン化（以下UD授業）』『楽しい授業』『規律ある授業』が行えるように、教員の授業力を向上させる。
  - ア 本校勤務年数が少ない教員への日常業務を通じた指導法の継承(OJT)が盛んに行われるような職場環境づくりを行う。
  - イ 教員相互の授業見学や研究授業を積極的に行う。
  - ウ ICTを活用し、授業改善と業務軽減を行う。すべての教員がプロジェクターを活用できるようにする。
  - ※ ユニット研修において年間5回以上の研究授業を行い、外部からの指導助言を受け研究協議する。
  - ※ 生徒による学校教育自己診断において「授業が分かりやすい」という項目に対する肯定的な割合（強く思う、ややそう思う）を80%以上。(H28年度71%)
  - ※ 授業アンケート「授業内容に興味関心を持つことができた」の項目で3.5ポイントに向上させる。
- (2) 生徒の学習習慣を確立させることを通して、学習意欲を向上させる。
  - ア 生徒が放課後に校内で勉強できる場（自習室・図書室）を整備し、教員が生徒の個別指導を行える体制をつくる。
  - ※ 日々の放課後に自習室・図書館を利用して学習する生徒がいる状態にする。
  - イ 生徒の遅刻を減らす。
  - ウ 生徒の読書習慣を確立する。
  - エ ICTを活用し年度末の成績不振による留年者を50%に減少させる。
- (3) 生徒一人ひとりの進路目標に合った学力（それぞれの学力）を育成する。
  - ア 義務教育段階の学力修得を目的とした茨田検定（振返り学習）・「基礎教養講座」や、習熟度別授業、補習などの内容を充実させる。
  - イ 発展・応用的学力の習得をめざす授業内容の充実と、授業以外の講習などを積極的に実施する。
  - ウ キャリア教育の実践として生徒の進路に応じた講座を充実させ、進路希望を実現させる。
  - エ 国際問題を絡めた英語教育
  - ※ 生徒の基礎学力を向上させることで、1年生・2年生の進級率を上げ、平成31年度には1年生85%2年生95%にする。(H28年度1年77%・2年90%)
  - ※ 進路決定未定者の割合を平成31年度には10%以下にする。(H28年度7.5%)
  - ※ UD教材の研究。プロジェクターを活用した茨田検定解説教材の作成。

## 2 より良い人間関係づくりができる学校文化の創出

- (1) 生徒のコミュニケーション能力向上を図ることにより、より良い人間関係づくりができる学校文化を創出する。
  - ア 教員のコミュニケーション指導力を充実する。
  - イ 生徒のコミュニケーション能力の向上を図る。
  - ウ 教職員ピアメンターシップ（以下「PM」）研修を実施し、PMの理解促進及び普及を図る。
  - エ 『コミュニケーション』の学校設定科目「コミュニケーション総合」の内容をより充実させ、コミュニケーション能力の更なる向上をめざす。
  - オ 英語によるコミュニケーション・プレゼンテーション能力の向上を図る。(International Day,プレゼンテーションを意識した英語授業)
  - カ 面接指導等の進路指導を通してコミュニケーション能力の向上を図る。
  - キ 活気ある学校づくりの一つとして部活動の活性化をめざす。
  - ク 障がい者に対する理解があり、思いやりがある人を育てる。
  - ※ 作成した「PM」のテキストを、校内で活用するとともに、そのノウハウを他校にも普及させる。
  - ※ 志学や道徳教育との関連性を重視した独自のコミュニケーション教育を構築する。
  - ※ 学校教育自己診断にコミュニケーション能力に関する項目を入れ、80%以上の生徒がコミュニケーション能力の向上を実感できる学校にする。

## 3 地域連携の推進（地域の人と楽しむ学校）

- (1) 地域連携を通じた生徒の成長
  - ア 地域の活動に参加する。
  - ※ 地域の活動への参加回数を維持する。(H28年度16回)
  - イ 地域の人々を学校に招聘する。
  - ※ 体育祭や文化祭、茨田高校フェスティバル（地域交流イベント）を活用して地域の人々を学校やイベント会場に招き、交流を持つ。
  - ※ 中学の部活動を招いて実施する「茨田カップ」の回数を増加させる。(H28年度1回)
- (2) 広報活動の充実
  - ア HPの充実
  - ※HPを1週間に1回の頻度で更新する。
  - イ 学校説明会の充実

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成29年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>(1) 生徒向け診断</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年の結果と比較して大きく変化した項目はないが、3年前と比較すればほぼすべての項目で肯定的回答が増加している。</li> <li>・特に学習面に関する項目では肯定的回答の増加が顕著である。</li> <li>・過去との比較から教員の生徒への関わりが生徒にとって良い方向へ改善されている。</li> <li>・生活指導（服装や遅刻指導など）の強化により先生の指導に納得できる割合が若干減少したと思われる。</li> </ul> <p>(2) 保護者向け診断</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年と比較して肯定的回答が大きく減少した項目はなかった。</li> <li>・生徒の納得感とは反して、服装や髪型指導など生徒指導の方針に共感している様子がうかがえる。</li> <li>・地震や台風などの場合の対応について、行動マニュアルの周知方法を検討する必要がある。</li> <li>・回答状況より、保護者の学校行事や授業参観等への参加を増やすことが課題。</li> </ul> <p>(3) 教員向け診断</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の質問項目の3/4において、肯定的回答割合が75%以上である。</li> <li>・教職員間の意思疎通や意見交換が活発になっている。</li> </ul>	<p>【第1回】平成29年6月15日(木) テーマ：「基礎学力を伸ばすには」</p> <p>1、本校の現状報告について述べた後、学校経営計画の説明、本校の基礎学力の向上と進路指導の取組み等を首席より説明。</p> <p>2、協議委員からの意見</p> <p>①基礎学力の定着について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・茨田高校で学力が付き自信につながったと実感している。家庭の安心感が基礎学力の安定につながる。学校が安心できる場所になれば基礎学力が定着するのではないかと。そうすれば「何かやってやろう」と考える生徒が増えると思う。</li> <li>・全体的な力を上げる中で、課題のある生徒へ学習の大切さをアプローチした方がよい。</li> <li>・自尊感情や成功体験がなければ自己実現の欲求はめばえない。クラブや授業、アルバイトなどで人から評価される機会を与えればよいのでは。</li> <li>・茨田高校の取り組みはきめ細かいと思う。質の部分で自尊感情や心の持ち方、動機づけを一步一步進めて欲しい。また、教員のモチベーションをあげて欲しい。</li> </ul> <p>②進路指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年、就職希望者が増加傾向にあるがなぜなのか分析を行う必要がある。大学でも経済的な理由で退学する学生が多数いる。</li> <li>・中学生でも就労体験があるが、早い段階でキャリア教育をしていかなければアルバイトが学校生活の中心になる生徒が増えていき、卒業後はそのままフリーターになる生</li> </ul>

・校内研修に関する項目で肯定的回答が大きく増加した。

徒も出てくるのではないか。

【第2回】平成29年11月9日(木) テーマ:「本校教育の全般について」

1、本校の現状報告について説明した後、広報活動用資料について、いじめに関するアンケートの結果、進路の決定状況を説明。

2、協議委員からの意見

①広報活動について

- ・中学生にとって学校の選択には、教育活動以外の要素が加わること多い。(学校の雰囲気や通学のしやすさなど)
- ・中学生の生徒数は全体的には減っているが、増加傾向の中学校もある。中学校訪問は「広く浅く」から「近く深く」を意識してはどうか。
- ・社会で活躍している卒業生に学校説明会などで話をしてもらったらいと思う。

②いじめに関するアンケートについて

- ・質問項目をもう少し精選してはどうか。

③本校教育の全般について

- ・先生方の頑張りで学校が変わるのを実感した。悪い噂がなかなか消えないことを残念に思っている。
- ・あいさつや服装など基本的なことからコツコツと指導していくことが重要。やはり服装や髪などの第一印象が大切。
- ・今日、来校時に視界に入らないくらい遠くの方から生徒があいさつをしてくれた。その生徒の気持ちが伝わるだけでなく、あいさつができる子に指導された先生のすべてが見える。地域は生徒の変わった様子を見ている。
- ・子どもを茨田高校へ入学させてよかったと思う。自信をつけることができた。
- ・粘り腰で頑張るしかない。努力している姿を中学生に見せることが必要。

【第3回】平成30年2月22日(木) テーマ:「本校教育の全般について」

1、本年度の取り組みに関する説明・報告と質疑応答

- (1) 平成29年度学校教育自己診断の結果について
- (2) 生徒心得について
- (3) 学校運営協議会設置について

2、協議委員による協議

- ・学校教育自己診断の結果を受けて茨田高校としては何を大切にしたいのかを明確にしなければならない。
- ・生徒の「学校の指導に納得ができる」の割合が低下していることについて、カウンセリングマインドの生徒指導ができていれば、数値が高くなるはず。
- ・過去にはほとんどが否定的な割合が多かったが、肯定的な割合が多くなっている。
- ・周りの保護者には、茨田高校に来てよかったという意見が多い。自己診断の結果は生徒と保護者で意見が変わるのが現実である。教員自身の経験やバックグラウンドに関して生徒には十分に伝わっていると思う。
- ・校則を見直すのは今がいい機会である。真面目にしている人が不利益を受けないことが大切。
- ・校則の中に生徒心得、運用、内規に当たるものが混在している。整理していくことが必要。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力の向上	<p>(1) 『UD 授業・楽しい・規律ある授業』を実現するための教員の授業力向上</p> <p>ア 本校勤務年数が少ない教員へのOJTの実施</p> <p>イ ユニット研修や研究授業の充実</p> <p>ウ ICT を活用した授業改善と業務軽減</p> <p>(2) 生徒の学習習慣確立を通じた学習意欲の向上</p> <p>ア 生徒が放課後に校内で勉強できる場(自習室・図書室)を整備したうえで、教員が生徒を個別指導できる体制をつくる。</p> <p>イ 授業開始後の小テスト</p> <p>ウ 生徒の遅刻を減らす。</p> <p>エ 生徒の読書習慣を確立する。</p> <p>(3) 生徒個々の進路目標に合った学力を育成する。</p> <p>ア 義務教育段階の学力習得を目的とした「茨田検定(振り返り学習)」「一般教養講座」、習熟度別授業、補習などの内容を充実させる。</p> <p>イ 発展・応用的学力の習得をめざす授業内容の充実と、放課後等の講習を積極的に実施する。</p> <p>ウ 生徒の進路に応じた講座を充実させ、進路希望を実現する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・担当首席を中心に管理職や分掌長等が講師となつて、若手育成に当たっている研修組織(青葉会)を、本校勤務年数が少ない教員へも拡大する。</p> <p>・本校勤務年数が少ない教員に対して、年度当初に授業規律の確立を重点的に指導する。</p> <p>・年度当初に、エバーサルデザイン視点に即した教室整備を行う。</p> <p>・生徒の家庭環境を知り、それに合わせた指導</p> <p>イ・教員全員を、教科や教職経験年数等で偏らないグループ(ユニット)に分け、各ユニットで初任者研究授業や授業力向上に関連する研修、公開授業、研究協議を企画実施し、その成果を校内で共有(ユニット研修)。</p> <p>・UD 授業の取組みを実施することで、本校生徒の理解がより深まる授業を行う。</p> <p>ウ・校内の視聴覚機器、大型プリンター等を活用して、UD 授業の視点に立った教材作成を行う。</p> <p>・生徒による学校教育自己診断の結果を検証して授業力向上へ結びつける方策を確立する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・放課後に、自習室と図書室へ教員が必ず常駐し、生徒に対する個別学習指導にあたる。</p> <p>・定期考査前の学習や長期休業期間後の課題学習など、特定の時期に応じた生徒の個別学習を充実させるように、各教科が教材準備や指導を行う。</p> <p>イ・授業開始後に「振り返り」「漢字」「計算」などの10分間の小テストを英数国で実施、全教科開始後5分の規律指導を実施。</p> <p>ウ・遅刻の回数に応じて、担任、学年主任、首席、教頭、校長による説諭を行う。</p> <p>・遅刻の回数に応じて、学年による放課後清掃指導等を行う。</p> <p>エ・毎日の終礼、総合的な学習の時間、LHR、基礎教養などの時間を利用して、年間を通じた「10分間読書」活動を企画実施する。</p> <p>(3)</p> <p>ア・「茨田検定」を全学年で年度当初から計画的な問題作成と冊子化に取り組み、一般教養的内容を取り込む。</p> <p>・成績不振者への指名補習、個別指導を充実させる。</p> <p>イ・2・3年生で学業成績に基づくクラス編成を実施し、成績の推移を分析しながら、各授業で生徒の学力向上をはかる。</p> <p>・外部機関の資格試験(漢検・英検・P検(パソコン検定・数検)等)を活用して、生徒の学力向上とキャリアアップを図る。</p> <p>・発展・応用的学力の習得をめざす講習を、1年生から実施する。</p> <p>ウ・進学希望者に対して、進路希望に応じた多様な講習を1年生から実施する。</p> <p>・就職希望者に対して、インターンシップや試験対策講座を2年生から実施する。</p> <p>・進路ガイダンスの充実</p> <p>急な進路変更に対する対応</p> <p>卒業後の離職、退学者の防ぐ</p>	<p>(1)</p> <p>ア・拡大した青葉会の研修を年間で12回実施する。</p> <p>・年度当初の授業見学において、次の2点を重点的に指導する。</p> <p>《授業規律》 生徒の机上の整理整頓 《エバーサルデザイン》 教室掲示物・板書状況</p> <p>・毎週学年会を開催し点検事項の確認を行う。</p> <p>・青葉会と週一回の学年会開催で情報共有</p> <p>イ・初任者研究授業・公開授業の実施とその後の研究協議を6回実施。</p> <p>・年度末に各ユニットの研修成果を発表する機会(プレゼン)を設け、校内での共有化を図る。</p> <p>・UD 授業に関する研修等に年間3回参加する。</p> <p>ウ・生徒による学校教育自己診断において「授業が分かりやすい」という項目に対する肯定的な割合を80%以上にする。H28(71%)</p> <p>(2)</p> <p>ア・自習室を100日以上開室する。H28(158日)</p> <p>・学校教育自己診断の「日常的に放課後学校で学習したり、家庭で学習している」の項目に肯定的な答えを出す生徒の割合を50%にする。H28(48%)</p> <p>イ・実施率90%をめざす</p> <p>ウ・年間遅刻総数を10000人以下に減少させる。H28(10600人)</p> <p>エ・「10分間読書」を年間で10日実施する。H28(10日)</p> <p>(3)</p> <p>ア・全学年の茨田検定を継続</p> <p>・各中間考査後と夏季・冬季休業期間中に、座学教科で成績不振者への指名補習を実施する。</p> <p>・1年生85%、2年生95%の進級率をめざす。H28年1年77% 2年90%</p> <p>イ・1年生全員が英語検定を受験するよう指導する。H28 全員受検予定</p> <p>・各種外部機関の資格試験総受検者と総合格者を今年度より増加させる。H28年度の総受検者588</p>	<p>(1)</p> <p>ア・12回 実施(○)</p> <p>・授業開始後5分の規律指導を行う(○) 講師への周知が課題</p> <p>・各教室掲示物が見やすく整っている(○)</p> <p>・全学年学年会を毎週月曜日に開催。(○)</p> <p>イ 初任者(2名)研究授業をユニット研修として実施。観察する観点を明確にするなど質が向上した。(○)</p> <p>・ユニット研修においてUD、アクティブラーニングを意識した授業を初任者以外が3名実施。ユニット研修において5回の公開授業・研究協議、まとめの授業力向上研修を行い総括した(△)</p> <p>・京都教育大のUD 授業研修として島根県瀬摩高に2名見学に派遣。支援学校の公開授業での研修に2回参加。(○)</p> <p>ウ・「授業がわかりやすい」という項目に対する肯定的な割合はH28年度と同じ71%。(△)</p> <p>各教室プロジェクターが1月にやっと設置されたので30年度は80%の目標を達成したい。</p> <p>(2)</p> <p>ア 自習室は授業日に毎日の開室(○) H28 (158日)</p> <p>・図書室の開館日は昨年と変わらず。考査前の教員付添、テスト対策プリントが充実。(○)</p> <p>・肯定的な回答51%(H28:48%) (○)</p> <p>イ・授業導入として英数国では100%小テストが定着した(○)</p> <p>ウ・H29年度は10000人を切った。遅刻総数は年々減少している。8877人(○)</p> <p>エ・5、11月実施。合計10日(○)。広報・本の選定など図書委員が積極的に読書週間に関わった(○)</p> <p>(3)</p> <p>ア・プロジェクターの設置が遅かったのでプロジェクターを使用した茨田検定の実施まで至らなかった。指定クラスで試行開始。茨田検定は従来通り実施(○)</p> <p>・成績不振者補習は充実。制度として定着した。</p> <p>・進級率 1年:68.8% 2年:86.4%(△)</p> <p>イ</p> <p>・国、数、英、小論文、看護系進学対策、就職対策の講習を通年実施中(○)</p> <p>・漢検(1, 2年全員受検) 117名 英検(1年全員受検) 102名、 P 検4名、数検1名の合格(○)</p>

	<p>エ 国際問題を絡めた英語教育</p>	<p>エ・実用英会話の授業において諸外国調べ、プレゼンテーションの実施。</p>	<p>人、総合合格者 195 人)</p> <p>ウ・1・2年の進学、就職希望者対象の各種講習について、開講講座数と講習への総参加者を、今年度より増加させる。</p> <p>(H28 年度の開講講座数 12、総参加者 220 人)</p> <p>・進路決定未定者の割合を 10%以下にする。 (H28 年度 14 名 7.5%)</p> <p>・進路 HR を 1 年 7 回、2 年 5 回、3 年 5 回＋基礎教養 (毎週) を実施</p> <p>エ・公開授業の実施。</p>	<p>ウ</p> <p>・開講講座数 14 総参加者 122 人 (進学 32 名 就職 90 名) (△) 進学講習継続者が増加。</p> <p>・就職内定率 100% 進路未決定者は 10 名 (○)</p> <p>・進路 HR は計画通りの回数で実施 (○)</p> <p>エ 3 年生実用英会話の授業で実施。校内の公開授業とした。(○)</p>
--	-----------------------	--	--	--

<p>2 より良い人間関係づくりができる学校文化の創出</p>	<p>(1) 生徒のコミュニケーション能力向上を図ることにより、より良い人間関係づくりができる学校文化を創出する。</p> <p>ア 教員のコミュニケーション指導力を充実する。</p> <p>イ 生徒のコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>ウ 教職員PM研修を実施し、PMの理解促進、普及を図る。</p> <p>エ 『コミュニケーションコース』の学校設定科目「コミュニケーション総合」「PMI」「PMII」の内容をより充実させる。</p> <p>オ Inteternational Day・授業でのプレゼンテーションを実施し、英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>カ 進路指導を通してコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>キ 活気ある学校づくりの一つとして部活動の活性化をめざす。</p> <p>ク 合理的配慮ができる人を育てる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・定例のコミュニケーション委員会とコミュニケーションコース担当者会議で、生徒のコミュニケーション能力向上の取組強化対策を立案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員それぞれが、生徒のコミュニケーション能力向上のための取組を行い、その内容と効果を集約して全教員で共有するとともに、特に優れた取組については本人によるプレゼンを行い、全体化することで、教員のコミュニケーション指導力を向上する。</li> <li>・PMの技法を応用し、自分を大切に、他者を理解することをベースとした生徒指導を展開する。</li> </ul> <p>イ・校内の「あいさつ通り」を活用し、集会時、授業時でのあいさつ指導とともに全校的な指導を徹底した上で、その効果をアンケートで確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションをテーマとしたホームルーム（「コミュニケーションHR」）を実施し、志学と連携したコミュニケーション教育を充実する。</li> <li>・校外のプレゼンイベントへの参加</li> </ul> <p>ウ・「PM」のテキストを活用し、教職員PM研修を校内で実施し、校外にも普及を図る。</p> <p>エ・「コミュニケーション総合」で落語家などの著名人や大学教授等を招き、充実したコミュニケーション教育を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「PMI」「PMII」の授業内容を整理し、教材及び指導方法を確立、継承する。</li> <li>・「PMI」「PMII」履修生徒の中からNPO法人シヴィルプロネット関西によるメディアーター認定試験の合格者を出す。</li> </ul> <p>オ・International Dayの実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生英語会話、3年生実用英会話の授業でのプレゼンテーションの取り組み</li> </ul> <p>カ・生徒が職場訪問し、職場の人とコミュニケーションを取る機会を増やす。</p> <p>キ・体験入部等年度当初の新入部員獲得に向けた行事の充実。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携を活用した部活動の活性化。</li> <li>・文化部の発表の場として、近隣中学や住民を招待したイベント「茨田高校フェスティバル」の開催。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「部活動の日」（毎週金曜日／生徒、教員共に、部活動への参加を促す取組み）のさらなる充実。</li> </ul> <p>ク 障がい者との交流の場の設定、障がい者差別解消法の趣旨を理解させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・コミュニケーション委員会を年20回以上、コミュニケーション担当者会議を年5回（年度初め、各学期、年度終わり）開催。H28(5回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議で教員による「コミュニケーション能力向上取組プレゼン」を年2回実施。H28(2回)</li> <li>・教職員PM研修で全教職員が「聴く技術」を学ぶプログラムを入れ、年1回実施。H28(1回)</li> </ul> <p>イ・25項目のコミュニケーション能力アンケートを年2回実施し、20項目以上での数値向上。H28(20項目)(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションHRを年3回実施。</li> <li>・花園大学主催のイベントに参加。学校説明会(2回)人権文化交流会における発表</li> </ul> <p>ウ・教職員PM研修を校内で年1回実施。(アの内容を含む) H28(1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修への講師派遣、積極的な学校見学受入れ</li> </ul> <p>エ・コミュニケーションコース選択生徒アンケートで「コースで学んで話し方や行動が変わった」と答えた生徒の割合を80%以上(H28年度98.8%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「PMI」「PMII」を担当できる教員を養成し、2名以上確保。(H28年度2名確保)</li> <li>・メディアーター認定証取得者を増やす。(H28年度8名)</li> </ul> <p>オ・International Dayの実施。(H28年9月実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年授業でのプレゼンテーション。優秀者は集会でプレゼンテーション</li> </ul> <p>カ・学校幹旋就職希望生徒全員に応募前職場見学の実施(H28年157社261名)、ジュニアインターンシップ実施(H28年24社37名)</p> <p>キ・入部率を50%にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・茨田高校フェスティバルを年に1回開催(H28はH29年2月に実施)</li> </ul> <p>ク・年1回の交流実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活福祉の授業での施設交流(H28 6回)</li> </ul>	<p>ア・コミュニケーション委員会は年27回、コミュニケーションコース担当者会議は年5回開催された。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員による取組プレゼンは年1回実施。(△)</li> <li>・聴く技術を含むコミュニケーション技法を全教職員で学ぶ教職員PM研修を年1回実施。(○)</li> </ul> <p>イ・数値が向上したのは16項目。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションHRを年3回実施。(○)</li> <li>・生徒会主催の「文化のつどい」にPM部員が参加し、ポスター発表をしたが、プレゼンイベントは実施できず。(△)</li> <li>・パワーポイントによるPMプレゼンテーションを作成し、PM部員が年2回(人権文化交流発表会、寝屋川支援学校交流会)PMを紹介。(○)</li> </ul> <p>ウ・教職員PM研修を2月23日に実施。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大教大院生・大体大生にPM取組み紹介(○)</li> <li>・教育センター主催の「学校教育相談実技研修A」(2日間)の内1日を、本校がこれまで主催してきた「教職員PM講習会」の内容で行い、講師として本校教員を2名派遣。(○)</li> </ul> <p>エ・「コースで学んで話し方や行動が変わった」と答えた生徒は95.5%(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「PMI」「PMII」とともに本校教員2名で担当。(○)</li> <li>・メディアーター認定証取得者 9名。(受験者は23名)(○)</li> </ul> <p>オ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生英語会話3年生実用英会話で実施。集会でのプレゼンは実施できず(△)</li> <li>・International Dayとして11月11日実施(○)</li> </ul> <p>カ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年ジュニアインターンシップの参加者20名16社&lt;H28 37名(24社)&gt;であった。(△)</li> <li>・応募前職場見学310人148社(○)&lt;H28 157社261名&gt;</li> </ul> <p>キ・入部率24.5%(△)H28 16% *兼部の増加が数値の上昇につながった。</p> <p>ク 生活福祉の授業で近隣の高齢者施設との交流2回。支援学校、障がい者施設との交流4回(○)</p>
-------------------------------------	---	---	--	--

## 府立茨田高等学校

<p>3 地域連携の推進</p>	<p>(1) 地域連携を通して生徒の成長を促す ア 地域活動に参加する。 イ 地域の人々を学校に招聘する。</p> <p>(2) 広報活動の充実 ア HPの充実 イ 学校説明会充実</p>	<p>1) ア 地域活動への参加回数を維持する。(H28年度16回) イ・体育祭や文化祭、茨田高校フェスティバルを活用して地域の人々を学校や行事に招き、交流を持つ。 ・中学の部活動を招いて実施する「茨田カップ」の回数を増加させる。(H28年度2回) ・今年度もPTA文化教室に地域の方の参加枠を設ける。</p> <p>(2) ア HPを1週間に1回更新する。(H27年1週に1回程度) イ 本校での説明会と共に地域や中学校での学校説明会へ積極的に参加する。(H28年度18回)</p>	<p>1) ア 地域活動への参加回数16回 H28(16回) イ・年間1回以上の招聘を行う。H28(3回) ・年間3回以上の開催。H28(2回) ・年1回の実施。H28(1回)</p> <p>(2) ア・1週間に1回の更新を維持する。(H28年週1回更新) イ・本校での説明会以外に地域や中学での説明会参加回数を維持。申し出があれば断らない。</p>	<p>ア 8回(△) H28:16回 イ・2月3日に鶴見緑地公園で地域との交流イベント茨田フェス開催(○) ・茨田カップ年3回開催。サッカー・バスケットボール(○) ・文化教室実施27名参加(○) ・茨田高ツアー3名参加(△) 過去4年間で多くの近隣の方に参加してもらっており、参加人数も減少している。</p> <p>(2) ア 1週間に1回の更新。(○) イ 854人(H28 653人)(○) 学校説明会18回以上実施(校内6回以上)(○)</p>
----------------------	--	--	---	--